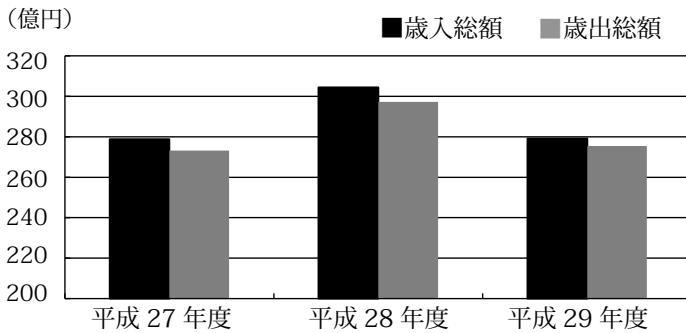


まちの家計簿

平成29年度決算がまとまり、9月3日開会の定例議会に提出しました。

一般会計の決算額は、歳入総額279億1,035万円、歳出総額275億4,635万円で、形式収支は3億6,400万円となりました。その内、年度内に事業が終わらないために翌年度に繰り越した事業の一般財源が5,428万円で、実質収支は3億972万円となりました。今後も自主財源の確保に努め、限られた財源を有効に活用するなど、財政健全化を進めていきます。

一般会計決算は黒字が続いています

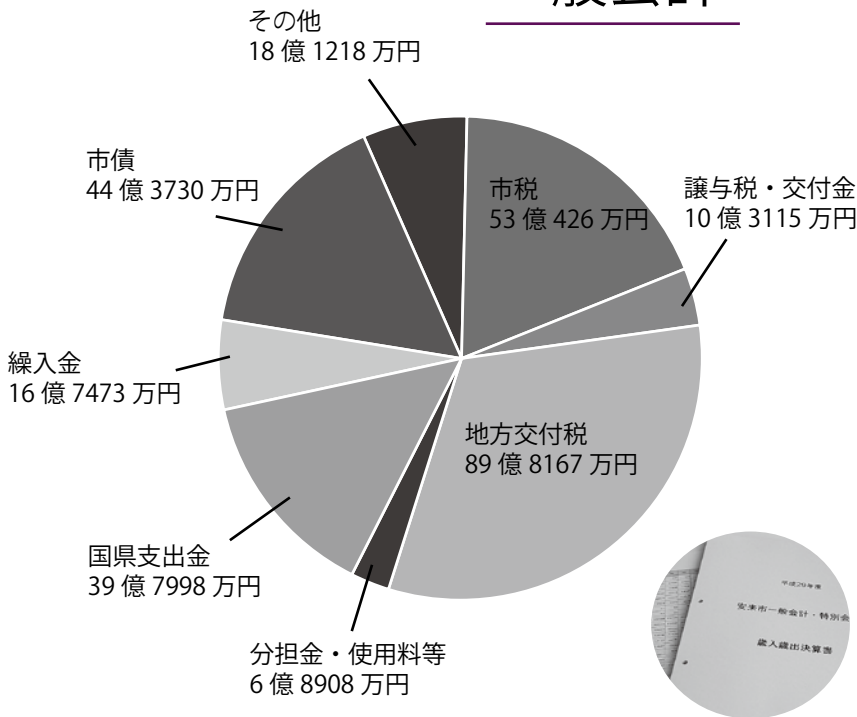


区分	平成29年度	平成28年度	平成27年度
歳入総額	27,910,348	30,440,543	27,882,767
歳出総額	27,546,348	29,729,640	27,315,650
差引	364,000	710,903	567,117

(単位：千円)

問い合わせ：財政課 ☎ 23-3025

一般会計



歳入

歳入総額 279億 1,035万円

■歳入総額は前年度比8.3%の減となりました

主なもの

増

- ・法人市民税と固定資産税など市税の増加 (2億5,479万円)
- ・ドジョウ掬いのまちやすぎ応援基金を取り崩したことなど (2億7,346万円)

減

- ・大型建設事業がピークを過ぎたことによる市債の減少 (△32億600万円)



平成29年度はこんな事業に取り組みました

みんなで子育て応援事業

(163万円)

「子育てお出かけマップ」サイトの運営。また、出生届の提出にあわせフォトフレームを出生記念品として贈呈しました。

農業生産基盤整備事業

(1億6491万円)

生産コスト低減や地域農業の活性化等を目的とした農業生産基盤整備（大区画ほ場整備）を行いました。



本町御笠線道路改良事業

(3200万円)

幅員が狭く対面交差ができない区間を整備しました。

消防機械器具等整備事業

(3097万円)

高規格救急自動車の老朽化により車両を更新しました。

貸工場等整備事業

(1億7279万円)

使用者の要望に応じた貸工場を建設。（使用者…株式会社豊栄工業 愛知県新城市）



基幹相談支援センター事業

(1800万円)

障がいのある人やその家族を支援するため、基幹相談支援センターを開設しました。

ふるさと寄附推進事業

(2億3146万円)

お礼の品を充実させ、市のPR強化と地場産業の活性化を図りました。また、申し込みサイトを充実させました。

空家等対策事業

(871万円)

空き家実態調査、所有者アンケートを実施。また、「安来市空家等対策計画」を策定しました。

歳出

歳出総額 275 億 4,635 万円

■歳出総額は前年度比 7.3% の減となりました

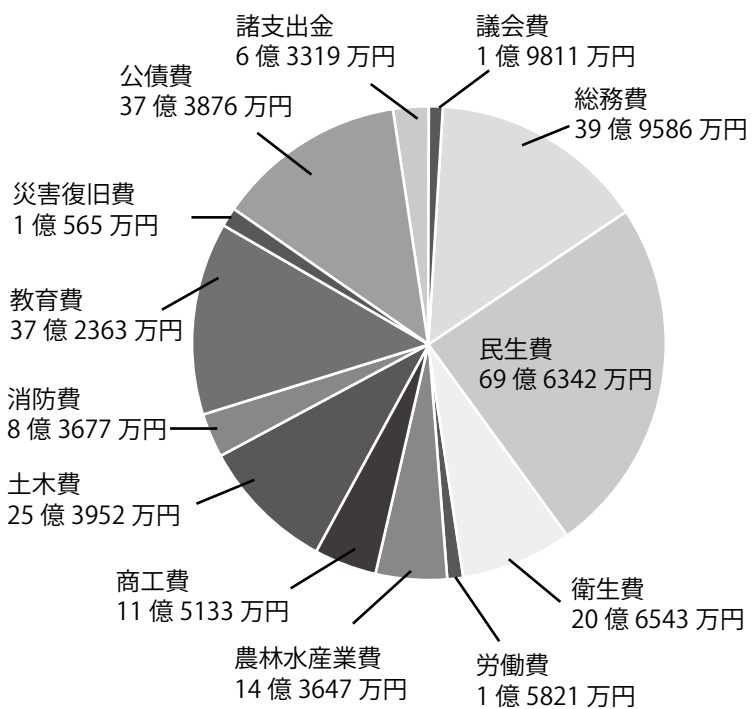
主なもの

増

・貸工場等整備事業等による商工費の増加
(2 億 7,974 万円)

減

・安来庁舎建設事業の進ちよくによる総務費の減少
(△ 3 億 7,706 万円)
・総合文化ホール建設事業の完了による教育費の減少
(△ 25 億 4,802 万円)



安来市の財政状況

●安来市は全て基準をクリア

財政健全化は、法律で定められた指標を見て判断します。

安来市は全ての指標で基準をクリアしています。

●指標が基準値を超えると

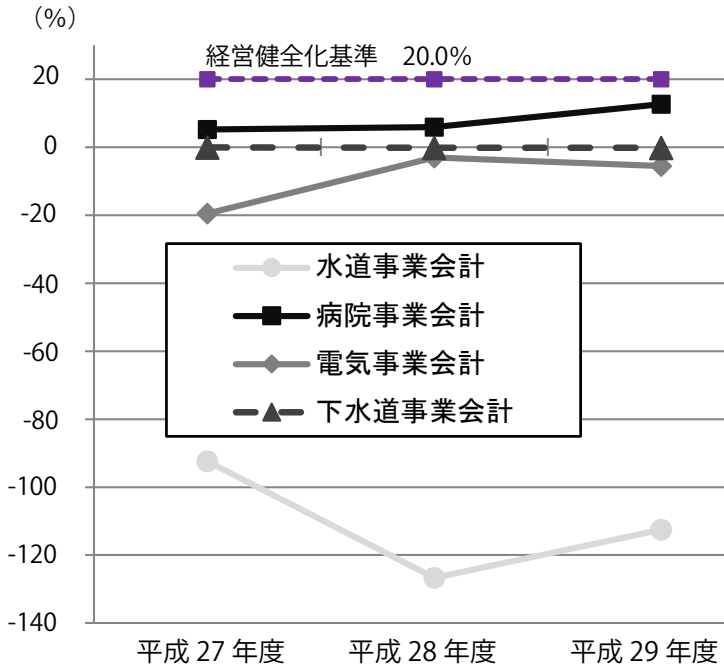
指標が早期健全化基準を超えると自主的な改善努力が求められます。さらに財政再生基準を超えるると財政再生計画を策定し、国の管理のもと財政再建を目指すこととなります。

●公営企業会計は

公営企業の4会計のうち、病院事業会計では、2億9835万円の資金不足が発生しました。同会計の資金不足比率は12.6%となりましたが、これは経営健全化基準(20%)内となっています。

資金不足比率とは、事業の規模に対する公営企業会計の資金不足額の割合。経営状況の深刻度を示しています。

公営企業会計の4事業は
財政健全化基準内となっています



※数値が低いほど、黒字が大きい。
病院事業会計以外の3事業は黒字決算です。

特別会計等の決算状況

安来市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険事業や介護保険事業などの「特別会計」や水道事業、病院事業などの「公営企業会計」があります。いずれも国民健康保険税や介護保険料、水道料金や医療収入など特定の収入を財源に事業を行っており、その収支状況を明確にするため一般会計とは分けています。

介護保険事業は特に前年度からの増加が大きくなっています

会計名	歳入 (収入)		歳出 (支出)		
	平成29年度	対前年度増減	平成29年度	対前年度増減	
国民健康保険	5,297,914	117,272	5,097,004	7,863	
後期高齢者医療	1,100,294	72,542	1,089,169	71,672	
介護保険	5,002,361	215,674	4,759,389	164,184	
特別会計	電気	76,937	△ 25,650	74,701	△ 26,128
下水道	3,133,570	15,902	3,131,937	16,249	
母里財産区	757	△ 21	49	21	
井尻財産区	245	△ 14	43	21	
赤屋財産区	202	116	57	25	
公営企業会計	水道	1,151,906	429,649	1,199,972	502,533
市立病院	3,010,900	△ 60,496	2,910,708	△ 84,651	

※簡易水道事業は、水道事業に統合しました

(単位：千円)

経常収支比率は前年度より減少しました

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	安来市の状況
経常収支比率	93.5	94.1	前年度より 0.6 ポイントの減となりました。 これは、市税の増により分母である歳入経常一般財源が増加となり、分子となる補助費および繰出金に充てる経常経費充当一般財源が減少したためです。
地方債現在高比率	269.0	261.1	前年度より 7.9 ポイントの増となりました。 これは市債の新規発行額の増加により、市債残高が 9 億 2479 万円増加したためです。
基金現在高比率	54.1	60.8	前年度より 6.7 ポイントの減となりました。 これは取崩し等により、基金現在高が 10 億 37 万円減少したためです。

(単位：%)

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	早期健全化基準	財政再生基準	安来市の状況
実質赤字比率	—	—	12.83	20.00	3 億 972 万円の黒字決算で赤字額は発生していません。
連結実質赤字比率	—	—	17.83	30.00	全ての会計を合算して 12 億 9523 万円の黒字決算となっており、連結実質赤字額は発生していません。
実質公債費比率	15.9	15.4	25.0	35.0	大型事業の借入金返済が始まったことにより 0.5 ポイント増となりました。
将来負担比率	130.7	124.2	350.0		市債残高の増および基金残高の減により 6.5 ポイント増となりました。

※実質赤字比率、連結実質赤字比率は、ともに黒字のため「—」表示にしています

(単位：%)

【用語の説明】

経常収支比率…市税などの経常的な収入を、扶助費などの経常的な支出に使っている割合。この値が高いと財政状況が硬直化していると判断される。

地方債現在高比率…将来の公債費負担の割合。
低いほど将来の公債費の負担が少ない。

基金現在高比率…積立金の割合。将来への蓄えを示す指標。

実質赤字比率…一般会計などの赤字の割合。

連結実質赤字比率…全会計の赤字の割合。

実質公債費比率…一般会計の年間の借入金返済額の割合。資金繰りの危険度を表す。
低いほど歳出総額に占める借入金返済額が少ない。

将来負担比率…将来に負担が見込まれる負債の割合。
低いほど将来見込まれる負債が少ない。

